

ひかりのこ

11月園便り

認定こども園
聖ミエル幼稚園
2022年10月26日

月主題：分かち合う

10月も後半になり、どのクラスも生活発表会に向けて準備が進んでいます。今回はどのクラスも昔から伝わる、日本、外国のお話です。

『昔話』。皆さんはどのくらいお話しすることができるでしょうか。かつては、おじいちゃんやおばあちゃん、お父さんお母さんからお話ししてもらったり、テレビでも「ぼうや～よい子だねんねしな」の歌から始まる『まんが日本昔話』を観たりして、昔話がとても身近でした。

といっても私が空で言えるのは、「ももたろう」ぐらいかな。海外のお話なんかは、ちょっと内容があやふやです。それに、孫がお泊りしたとき、赤ちゃんの時はお話ししてあげたことはありませんでしたが、日ごろは、孫の興味も増え、面白いものがあふれすぎて、なかなかゆっくりお話しすることができません。

でも私は、日本の民話が好きです。何とも言えない懐かしさを感じるからです。私がよく足を運ぶのは、岩手県の遠野市です。

ここは今でも昔話の里、もっと言うと妖怪の里です。柳田国男氏の『遠野物語』には不思議で、ちょっとぞくぞくするお話がたくさん書かれています。『遠野物語』は柳田国男氏が、直接遠野土淵村出身の佐々木喜善から伝え聞いた説話集です。そこには実際その土地の人が見たり経験したりした、「座敷童」や「河童」や「山男」、「山女」「おしら様」という神様のお話などが書かれています。幼児にはちょっと怖いので、もう少し大きくなったら絵本や本で読んでみてほしいです。できれば、御家族で実際遠野を訪れると、「伝承館」や「子どもの本の森」という図書館もあり、どっぷり昔話の世界につかることができます。

日本の子どもたちの大好きな「がらがらどん」も、北欧のお父さんが子どもに語り継いだ昔話だそうです。その国で、子どもに「がらがらどん」を話せない男はいないそうです。

今の時代の子子どもたちが昔話にふれなかったら、もう日本から昔話はなくなってしまおうでしょう。お父さん、お母さん、頑張ってくださいね！

園長 渡部 良子

キリスト教保育

「ジャコビニ大流星雨の夜」

小学生高学年の頃、宇宙から大量の星が降ってくるというニュースを聞いて、懐中電灯を持って近くの北大第二農場に一人で出かけました。当時の農場は真っ暗で、すでに多くの人が天体望遠鏡にカメラをつけて撮影などをしていました。その時、見知らぬ女性に声をかけられました。北大の学生と名乗る彼女とほんの少しの時間、流れ星を待ちながら一緒に夜空を見上げていました。話しの内容は全く覚えていません。暗がり顔の表情もよく見えません。ただ、その人の優しい声と、楽しそうな雰囲気がとても素敵だっただけ。帰りは途中まで一緒でしたが、その後、再びその女性と会うことはありませんでした。ジャコビニ大流星雨がもたらした小さな出会いは、小学生の私には十分にロマンチックで、この記憶は私に潤いを与えてくれます。

私たちの一生は、人との出会いで形作られています。忘れられない出会いと、記憶の外に押し出された出会いもあるでしょう。しかし、すでに記憶にない人との出会いも、もしかすると自分の大切な部分を作ってくれているのかも知れません。中学や高校の先生の記憶は生々しく残っています。しかし、幼稚園の先生となると、かなり難しいのではないのでしょうか。いま、幼稚園では、日々、子どもたちと先生たちとの出会いが起こっています。やがて忘れられていくと分かっている、先生たちは懸命に子どもたちの成長を後押ししています。この出会いが、一人の人生の大切な土台を作ること信じて。

私たちの人生に大切な出会いをもたらしてくださる神さまに感謝したいと思います。

チャプレン 司祭 下澤 昌